



発行所
西原町役場
〒903 01 西原町字嘉手苅112番地
電話 (09894) 5 4533
印刷 栄光堂印刷

町の世帯・人口
(昭和57年12月末現在)
世帯数 4,635 世帯
人口 17,983 人
男 9,080 人
女 8,903 人
12月の人口移動
出生 19人 死亡 9人
転入 121人 転出 64人
婚姻 19件 離婚 3件

今月からスタート

老人保健制度

本格的な高齢化社会にそなえて

老人保健法が成立し、今年の二月一日から本格的な高齢化社会にそなえて、お年寄りの医療はすべて新しい制度の下に運営されることになりました。

今まで、お年寄りは健康保険や国民健康保険に加入し、健康保険や国民健康保険の制度の下に医療を受けていたわけですが、これからは健康保険や国民健康保険から切り離され、老人保健法によって医療を受けることになるわけです。

医療の対象者

老人保健法の成立にともない、医療保険の加入者（被保険者、組合員及びそれらの被扶養者）のうち七十歳以上の及び六十五歳以上七十歳未満のねたきり等の状態にある人は、すべて新しい老人保健制度の対象となります。ただし六十五歳以上七十歳未満の人については、あらかじめ寝たきりなどの状態にあるという市町村長の認定を受けなければなりません。

健康手帳の交付

医療は七十歳の誕生日または寝たきりなどの状態にある旨の認定を受けた月の翌月（認定を受けた日が月の初日である場合はその月）から開始されます。

今までの老人医療費受給者証の代わりに健康手帳が交付されます。これは医療の受給資格を証明し、医療と日常の健康管理に役立たせるために健康診断などの結果を記録するものです。医療を受ける場合には、この健康手帳に保険証を添えて提示することになります。

医療のうけ方

老人保健の医療は、現在の健康保険や国民健康保険を取扱っている病院薬局で受けることができます。受診する場合は、新しく町から交付される健康手帳と保険証を提示して受診することになります。

一部負担金があります

老人保健の医療を受ける人は、一部負担金を医療機関の窓口で支払うことになっています。外来の場合は一カ月当り四百円を、その月の最初の診療日に負担することになっています。入院時の一部負担金は、一日当

老人医療費の負担割合を是正

老人保健制度では、七十歳以上の人の医療費を国・都道府県・市町村と医療保険各制度の保険者が負担することになりました。

医療保険制度には、健康保険、国民健康保険、共済組合などがありますが、それらの老人医療費の負担割合には、アンバランスなところがありました。

現在、国民健康保険に加入しているお年寄りの多くは、

特に、老人加入率の高い国民健康保険は、老人医療費の負担割合が高く、そのため財政は、もはやパンク寸前の状態になっているのです。

なぜ、国民健康保険の老人加入率が高いのでしょうか。それには次のような事情があります。

現在、国民健康保険に加入しているお年寄りの多くは、

査、機能訓練、訪問指導）を町において総合的一体的に実施することとしています。

病気予防からリハビリテーションまで

老人保健制度では、壮年期以降の病気の予防からリハビリテーションまでの一貫した保健サービスを行います。

お年寄りの病気には、高血圧、脳卒中、心臓病など慢性的なものが多く、治りにくいという特徴があります。ですから健康で平和な老後を確保するためにはふだんからの健康管理が大切です。

こうした健康づくりは、一人一人が自分自身の責任で行うことが大切ですが、それと併せて制度的にも適切な保健サービスを受けられるようにすることが必要です。

このため、四十歳以上の加入者を対象として、市町村が健康相談や健康診断（循環器系の病気が中心に年一回実施）、機能訓練、訪問指導（寝たきりの人を対象に食事や療養などを指導）など、各種の保健事業を実施します。

健康保険との関係

老人保健制度の医療を受けられる人は、医療保険等の医療給付から除かれますが、健康保険等の加入資格はそのまま、現在の被保険者、被扶養者の資格に変わりなく、医療以外の現金給付（傷病手当金や葬祭費等）については、従来通り、健康保険や国民健康保険から支給されます。

従って保険料・保険税は従来通り納付することになります。

保健事業の種類と実施主体

保健事業は医療（七十歳以上及び六十五歳以上七十歳未満の寝たきり等加入者の医療の給付）と医療以外の保健事業（健康手帳の交付、健康教育、健康相談、健康診

歳末助け合い募金お礼

沖繩銀行西原支店 三万円
熱帯果樹園二十日会（小橋川三八番地） 二万八、五四〇円
愛和保育園園児 九、七一二円
西原フォースクエア教会 一万円
具志千代さん（与那城二九七一番地） 二、四一一円

※十二月二十二日以降の分歳末助け合い募金に協力された方々のご厚意に対しこの紙面をかりて感謝申し上げます。

男子は宮城・上原組 女子は花城・稲福組が優勝 第二回町新春テニス大会

町テニスサークル連絡会主催の第一回町新春テニス大会が、一月二十三日、南石油コートで行われ、男女多数が参加し賑わった。

男子十六組、女子十一組が参加し熱戦が展開されたが、対戦の結果、男子ダブルは宮城・上原組が、女子ダブルは花城・稲福組がそれぞれ優勝に輝いた。

老人保健制度が2月1日から実施されます。

二百七十三名が大人の仲間入り 琉大女子寮から四十名参加

町成人式



▲成人者多数が参加して行われた本町の成人式
(中央公民館で)。

本町の成人式は、一月十五日午
後二時から中央公民館で成人者百
九十五名と来賓約五十名を集めて
なごやかに行われた。ちなみに

今年町内で成人を
迎えられた方々は、
男性百三十名、女
性百四十三名計二
百七十三名で昨年
より二十一名増加
した。今年からは
じめて千原五九番
地の琉球大学女子
寮に住んでおられ
る四十名の女子学
生も出席して行わ
れた。
華やかな振りと
での女性や洋装の
女性、今年からお
目見えした紋付は
かまの男性(六)

七人)、背広姿の男性とも一生一
代の盛装でそれぞれほほを紅潮さ
せ二十歳を節目に成人者としての
期待と社会的責任の重大さを自覚
しているようであった。

式典は、成人者紹介、官平吉太
郎町長の式辞、記念品贈呈、仲宗
根英輝教育委員長と親泊輝武町議
会議長からの祝辞などがあり、成
人者の門出を祝い励ました。

その中で式辞に立った官平町長
は、「これからの人生に誇りと責
任をもって、大いに前進し、明日
の社会を明るくする原動力となら
れるよう期待致します。」と激励
した。

その後、成人者を代表して字小
波津八〇三―四三の榎樹さんと
字兼久二三―一番地の官平恵さんが
謝辞を述べた。その中で榎さんは
「私達は、他人の犠牲の上に立つ
た自分だけの幸福を求めるのでは
なく、社会全体が幸福になるよう
に努力してこそ、真の社会人であ
り、成人としても認められるのだ
と信じます。」と力強く述べた。

式典終了後、記念植樹、成人者
全員の記念撮影、町教育委員会主
催の激励祝賀会などが行われた。

激励祝賀会では、小川教育長の激
励のあいさつ、新垣町青年団連絡
協議会会長のあいさつ、同会専門
部長あいさつ、青年会のアンケ
ーなどが行われた。また、アトラ
クションとして町フォークダンス
サークルによるオーストリアのフ
ォークダンス「チロルのレンド」
ほか二曲が披露された。

最後に、今年からはじめてのこ
ころであるが、成人式チャリテ
ィ祝賀会実行委員会主催の祝賀会
が催され、オードブルやお酒など
が出され、カラオケ大会もあり遅
くまで大変賑わった。成人式に参
加した成人者から千円を徴収し、
祝賀会の費用に当てるほか、社会
福祉のために町社協に五万円を寄
付した。

同期の友達が一堂に会して、思
い思いの懇談を交わし、成人者は
「成人者としての自覚」や「今後
の抱負」などをそれぞれ胸に秘め
たことでしょう。

町議会だより

十二月十四日から十七日にか
けて四日間の会期で昭和五十七
年第八回町議会定例会が開かれ
た。

提案された案件は、議案十件
決議二件であり、案件は全て原
案可決、決議された。

議案

工事請負契約締結について

(原案可決)
工事請負契約締結についての
議案は三件提出され、それぞれ
の工事名と契約金額は次の通り
です。

①与那城、呉屋線道路改良工事

- ①(一工区)、三、六〇〇万円
- ②与那城、呉屋線道路改良工事
(二工区)、三、三八〇万円
- ③小波津公園工事三、四九万円

工事請負契約変更について
(原案可決)

この議案は池田地区侵食防止
事業農道工事についてであり、
契約金額が変更された。

西原町災害弔慰金の支給及び
災害援護資金の貸付けに関する
条例の一部を改正する条例につ
いて(原案可決)

この条例に自然災害により精
神又は身体に著しい障害を受け
た町民に災害障害見舞金の支給

を行なうということで新たに加
えられた。

西原町国民健康保険条例の一
部を改正する条例について
(原案可決)

国会での老人保健法(昭和五
十七年法律第八〇号)の成立に
伴い、この規定による医療を受
けることが出来る者が、西原町
健康保険条例から除外されて西
原町老人保健特別会計として施
行するための条例改正等である。

昭和五十七年度西原町国民健康
保険特別会計補正予算について
(原案可決)

才入才出予算の総額にそれぞ
れ七二九万三千円を追加し、
補正予算総額を五億四、二四五
万四千円とした。

決議

第四二回国民体育大会開催に
関する決議について(原案可決)
沖縄開発庁の二局制存続に関
する要請決議について
(原案可決)

はたち声

成人式 インタビュー

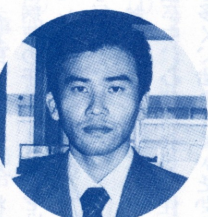
私は、沖縄女子短期大学児童
教育科(二年)に在学中です。
今年三月に卒業予定ですが、保
母と幼稚園教諭の資格免許を取
り、早く就職したいですね。
現在、保母さんも多く就職は大
変厳しいと思いますが頑張ります。
結婚問題に関しては具体的な
は考えたことはありません。理
想としては二十五歳頃に結婚し



翁長 時枝
(幸地209)

今日、成人式を迎えたわけで
すが、もうはたちかという感じ
でまだまだ実感が湧かないです

いす。当面は、しっかり勉強
して無事大学を卒業することが
僕の目標です。近い将来、中国



幸地 進
(小那覇24)

へ行ってみたいです。
僕は高校卒業時点から大人と
しての自覚をしてみました。今

消防出初式

消防職員の 模範演技を披露

一月六日午後二時、東部消防組
合の消防出初式が、同組合本部で
行われた。式典では、消防職員の
の服装点検、機械器具点検、優良
消防職員の表彰、感謝状贈呈、
管理者訓示(山城時正佐敷町長)、
来賓祝辞、消防長あいさつなどが
行われた。

式典終了後、消防職員によるは
しこの模範演技、交通事故の救急
業務、高所からの放水、小規模油火
災訓練、大型ポンプ車からの一斉
放水(全員)などが披露され、来



▶大型ポンプ車からの一斉放水

香典返し

このほど、次の方々から町社協
へ香典返しがありました。
▼仲宗根昌一さん(字翁長三六番
地)から故父・光盛さんの香典
返しとして五万円。

▼大宜味孔子さん(宜野湾市宇普
天間二七九番地)から故父・朝
徳さん(字翁長出身)の香典返
しとして五万円。

▼知念ウシさん(字我謝二〇一番
地)から故父・次郎さんの香典
返しとして三万円。
この紙面をかりて三名の方々の
ご厚意に感謝申し上げます。

健康づくりの食生活

ビタミンは体の潤滑油

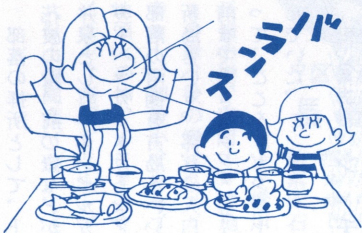
ビタミンCが風邪に良いなど、最近はある種のビタミンが病気に効くということから、ビタミン・ブームが起こっています。ビタミンはどんな働きをする栄養素なのでしょう。また、体に取り入れるにはどうしたら一番よいのでしょうか。

わたしたちが、生命活動を営んでいくには、数々の栄養素の助けが必要です。ビタミンもその一つ。ビタミン自身は体のエネルギー源にはなりませんが、エネルギーを効率よく使うなど、体の機能をスムーズにする“潤滑油”のような働きをします。

ビタミンが不足すると、それぞれ特有の症状を持った欠乏症が起ります。例えばビタミンAが足りないと「夜盲症」に、B₁が不足すると「脚気」という具合です。

今日まで発見されているビタミンは、A、B₁、B₂、C、D、Eなど、約20種にのびります。この中にはごく少量、体の中でつくられるものもありますが、ほとんどは食物から摂取されます。

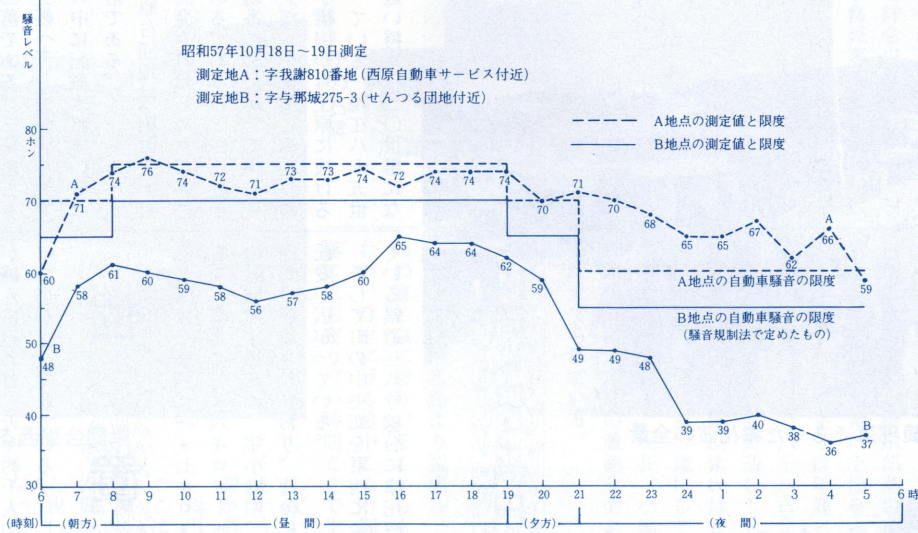
このようにビタミンは体の中でつくられた



り、食物に含まれる自然の栄養素なのですが、重要性が明らかになるにつれて、人工的に合成・生産されるようになりました。

人工的につくられたビタミンを、薬のように取り入れる——これ自体は悪いことではありませんが、なるべくなら食物から取り入れるようにしたいものです。というのはいろいろなビタミンが含まれるさまざまな食物を取ること、ビタミンだけでなく、同時に他の栄養素をバランスよくとることになるからです。

自動車交通騒音の経時変化



本町では、騒音規制法に基づいて昭和五十七年五月一日から騒音規制地域の指定が行われた。

この地域指定に伴い、県の依頼を受けて第一種区域（B地点）と与那地二七五の三、せんつる団地

自動車交通騒音の測定結果まとまる

付近）と第二種区域（A地点）と我謝八一〇、西原自動車サービス（付近）の自動車交通騒音の測定が十月十八日から十九日にかけて一日がかりで行われた。このほ

A地点で夕方、限度を超える高値が出たのは、退勤時のラッシュアワーに差し加かったこと、町内事業所に働く従業員が増加したこと、本町の人口増加などは見逃せない要因である。

また、夜間の高値は、スナック、サロンなどの風俗営業所からの旅客運送のタクシーの往来が主な原因である。

尚、測定結果は上記のグラフ通りである。

のすべてが完成する予定であり、四月以降の入居を迎えている。最終的には百十戸の住宅建設が計画されているが、残りの二十五戸の住宅建設はまだ決まっていない。今回分譲されているのは、今建築中のもので土地付分譲住宅として五十戸が売りに出されているが、その内、四十五戸が契約を済している。売主は、株式会社琉信と株式会社浩陽開発である。

建物床面積は、二一・二六坪、土地面積は六〇坪前後である。

西原ハイットのまちづくりは今年中にほぼ整うこととなった。



▲A地点の騒音測定現場



▲あるこうあるこう大会

好であると言える。

親子の対話と身近な自然や地域文化とのふれあいの場をつくらうと町教育委員会主催の第八回目的のあるこうあるこう大会が、十二月十二日午前、町内四・五キロのコースで行われた。小雨まじりの肌寒いあいにくの天気にもかかわらず、三歳児から最年長七十九歳のお年寄りまでの町民が約二百五

さらに県企業局の西原浄水場も訪れ、水がきれいにされる仕組みなどを学んだ。尚田王が住んでいた内間御殿も訪れしは昔のおもかげをしのいでいた。

昭和五十七年分の贈与税の申告は、二月一日から、所得税の申告は、二月十六日から、それぞれ受付が始まります。申告期限はどちらも三月十五日ですが、期限間近になりますと税務署は大変混雑し落ちついて相談できなくなったり、長時間お待ちいただくようなことになりかねません。申告はできるだけ早く済ませるようしてください。

贈与税は、個人から財産をもらったときに、財産をもらった人にかかる税金です。申告書は、贈与を受けた人の住所の税務署へ提出してください。納税は三月十五日までにしなければなりません。税額が五万円を超えていて、一時に納付することができないときは、五年以内の年賦にすることがあります。申告書の書き方などで、分からない点がありましたら、お気軽に北那覇税務署（七七一―三二四）にお尋ねください。

北那覇税務署では、申告期間中いつでも相談ができるように体制を整えています。西原町の皆様は税務署まで行かないでも申告ができるように、次の日程で移動納税相談を実施します。

月日 二月二十四日（木）
二月二十五日（金）
時間 午前九時三〇分から午後四時三〇分まで
場所 西原町役場ホール
できるだけ相談会場をご利用ください。

西原ハイツ

第一次入居ほぼ終わる

昭和五十六年七月から宅地造成工事が行われ、昨年住宅建設が進められていた西原ハイツ（旧我謝モーター）では、昨年十月頃に三十戸の住宅が完成し、十一月頃から入居しはじめ、現在その内二十八世帯がすでに入居をしている。現在、五十五戸の住宅建設が進められており、今年四月にはそ

所得税、贈与税の申告はお早目に

△所得税の確定申告▽
所得税は、個人が一年間に得た所得金額に応じてかかる税金です。確定申告をしなければならぬ人が申告しなかったり、正しくない申告をしたりすると、後で不足の税金を納めるだけでなく、無申告加算税又は過少申告加算税が課され、その上、延滞税も納めなければなりません。

△贈与税の申告▽
贈与税は、個人から財産をもらったときに、財産をもらった人にかかる税金です。申告書は、贈与を受けた人の住所の税務署へ提出してください。納税は三月十五日までにしなければなりません。税額が五万円を超えていて、一時に納付することができないときは、五年以内の年賦にすることがあります。申告書の書き方などで、分からない点がありましたら、お気軽に北那覇税務署（七七一―三二四）にお尋ねください。

北那覇税務署では、申告期間中いつでも相談ができるように体制を整えています。西原町の皆様は税務署まで行かないでも申告ができるように、次の日程で移動納税相談を実施します。

月日 二月二十四日（木）
二月二十五日（金）
時間 午前九時三〇分から午後四時三〇分まで
場所 西原町役場ホール
できるだけ相談会場をご利用ください。



▶昨年十一月から入居しはじめた

はじめに

七区は、津花波、小橋川、内間、西原台団地を含み、三七三世帯、一、四五四人を擁する行政区である。人口は、八区、十三区、六区に次いで四番目に多い。行政区改編当初に比べて人口が一・七倍増えた人口急増区である。

面積は、一・四三四平方キロメートルで五番目に大きい。

津花波、小橋川、内間は、本町でも古い部落である。三部落とも琉球石高宛帳(十七世紀はじめ頃)の十二村の中に記載されているほどの旧部落である。

また、西原台団地は、昭和四十七年頃から開発された新集住地域である。ちょうど津花波と小橋川の地番にまたがっている。団地の中央部(小橋川と津花波の字界)を小橋川から上原に抜ける道路が走っている。現在八十五世帯だが、近い将来一三〇世帯になるであろう。

小橋川が扇状に部落を形成し、国道三二九号線沿に内間部落が立地している。

また、西原台団地は、津花波と小橋川の境界線を走る道路を左右に集落がヒナ段状に形成されたところであり、丘陵部に位置し大変見はらしのよいところである。

津花波

津花波部落の創始家として呉屋門中と与那嶺門中の二家がある。呉屋門中の宗家は五百年前に佐敷の津波古からここに移ってきた。

一方、伝説によると与那嶺門中は部落の創始者であるマカーサーリという人が、昔、幸地部落から移って、地組をはじめたという。マカーサーリは幸地の仲門門中からの分れで、その後裔(子孫)は与那嶺門中である。字行事としてマカーサーリの霊を慰めるために、毎年旧五月五日と六月十五日には御殿小を拝むという。また

位置

七区は、東西に一・七キロメートル、南北に一・六キロメートルの区域で津花波、字小橋川、字内間が形成されており、背後には丘陵が広がっている。そして町の中央部を東西に走っている県道三八号線沿に津花波、

小橋川

この部落の根家(創始家)として、東風平門中、喜屋武門中、高江洲門中の三家がある。しかし、いまではその三家は残っていない。三家とも字の拝所がある上又松木一附近に屋敷を構えていた。それ以前には与那ガリ附近に住んでいた。

内間

古い部落である。かつては、掛保久、嘉手苺、小那覇一帯までが内間地内であった。伝説によると、部落の創始家は御殿小、宇根(ウーニ)、西田場の三家であるという。その中でも、最も古いのは宇根であり、部落の根屋として崇められている。

公民館の後の道を「前の道」と

部落の北側にマカー御願所がある。部落の拝所として、上の嶽、津花波の殿、前の嶽などがあり、拝井泉として、タンパルガリ、喜納ガリ、マカーヌカーなどがある。部落の南側に古島といひ、北側に新島という。部落の人口付近に戦前まで大きなクワディサーの木があった。ここをウガンジャマーと呼んでいた。

構えたのにはじまる。大城姓である。喜屋武家は宇津尾モ一の仙山番人をして、口畑(チャーイン畑と呼んでいた)があったが、その後首里に引揚げた。

呼び、昔は御殿小一帯に集落があったが、その後、下の方へ移ってきた。この部落は真南に向って立地している。

の種は、何といっても公共用地がないことである。曲りなりに現在私有地を借用して子どもの遊び場や集会場に利用している。

第二尚家の始祖である尚円王とも関係の深い地である。尚円はかつて内間地頭を任じられ、内間金丸と呼ばれていた。カヤブキ御殿に尚円は住んでいたという。内間ノロと尚円との間にできた子が内間大屋久で、後に根屋安谷屋を相続したという。内間金丸が王位(尚円王)につくと、その子孫らは小那覇親雲上、小波津里之子、小橋川親雲上、安室親雲上、桃原大屋上、棚原大屋上、幸地親雲上、内間親雲上、我謝親雲上、与那城親雲上などになり、西原間切各部落を支配するようになった。

団地内では、ほとんど血縁関係はなく、姓もバラエティに富んでいる。職業別に見ると大学教師、地方公務員、小中高の教諭、医師、弁護士、実業家、パイロット、警察官、大学事務局職員、会社員建設業、銀行員などがあるが、中でも教育関係者と地方公務員が多い。

模範部落津花波

昭和十五年四月十六日付の大坂朝日新聞に津花波が全国屈指の模範部落として紹介されている。

西原台団地

西原台団地は、昭和四十七年頃から宅地造成が進められ、小橋川と津花波にまたがる八十五世帯を擁する新興住宅地域である。その内訳は、小橋川五十一世帯、津花波三十四世帯である。入居世帯数を年度別に見ると四九年(二二)、五〇年(一一)、五二年(四)、五三年(一三)、五四年(三六)、五五年(一四)、五六年(六)、五七年(九)であり、五三年、五四年がピークで七三%が入居している。現在も住宅建設が進行中で住宅敷地も点在していることから年々世帯は増える様相である。

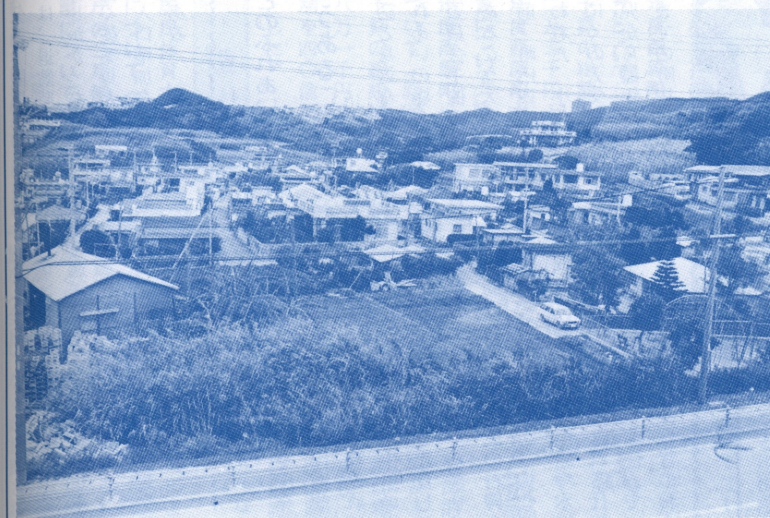
西原村字津花波部落は第一回共進会以来三年連続して第一位を占め、譽の優勝旗真い切りという珍らしい記録を樹立した。同部落は最近農業報国連盟から全国より十部落厳選そのうち同部落も見事入選して全国賞および農会賞授けられた。全国屈指の模範部落であり、名実ともに沖繩一を誇っているが、農業および農業経営などに全部落民一丸となって全力注ぎ甘蔗の如き段当収獲高二万九千九百斤(一万三〇五四キログラム)という驚異的実績を挙げ、甘諸収獲は県平均の九百貫に比し此当平均二千五百七貫(七、七四キログラム)の収獲をあげている。同部落は農事ばかりではなく生活改善、銃後活動(食料増産活動の意味)にも模範となり児童の出席率、学力も十数年前から殆ど全村一を誇っている。戦後も、模範部落として何回も表彰されている。



▲農業で模範部落であった津花波の全景



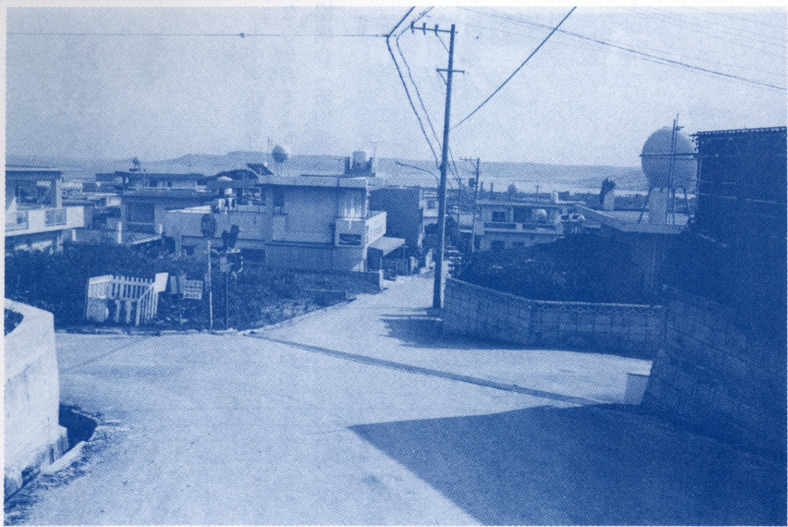
▲井然とした屋敷が並ぶ小橋川の中心地



▲真南に向って立地している内間の全景

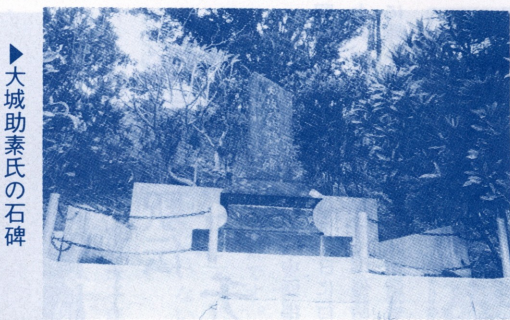
自治会の現在かかえている悩み

(次面につづく)



▲見はらしのいい丘陵部にある西原台団地

という伝説がある。尚岡がここにいて、内間ノロと親しくなった。字の拝所の一つである名幸モーは別名「縁結びモー」と呼ばれ、内間ノロと尚岡が契りを結んだ所だという。それを伝える琉歌



の発展に大きく貢献された。明治三二年頃より農村の改革を企画し、県農業農村の振興は甘蔗圧搾機の研究にあるを着眼し、私財を投じて研究に没頭した。遂に努力は報いられ、大正三年大城式甘蔗圧搾機玉車の発明は完成された。その結果、県糖業界に一大光明をもたらした。また、大城式玉車のおかげで、小橋川部落の砂糖生産高は中頭郡で常に上位を占めるようになった。字では年間七百丁の内四百丁（二万八千八百キロ）は工場に出さず自家製造していた。製糖業の恩人大城助素氏は大正六年五月二九日、五〇歳にして惜しくも他界された。現在、小橋川公民館前に大城氏の遺徳を偲ぶ石碑が立てられている。

内間ノロと尚岡



津花波は本町での有数の移民部落である。明治四十三年頃、四名の青年らがハワイに渡ったのをかわきりに、次々とハワイやペルー、ブラジル等に渡航した。戦後も、ブラジルやペルーへ呼寄せ移民として数家族が出て行った。小橋川でも、ハワイやブラジルに二五〇名ほどの同姓出身者が活躍している。明治三十七・八年頃契約移民として四・五名の青年らがハワイに渡った。その後、移民制限令でハワイへの移民が困難に

なつたので、移民先をブラジルに向けた。ハワイよりブラジルへの移民が多い。内間からも、明治末期頃十数名の若者がハワイへ渡った。その後、彼らはハワイへ定住し、沖縄から家族を呼び寄せた。戦前、ハワイからの送金が多く、旧正と益の二回に十ドルから百ドルの金を送られてきた。その後、ハワイへの移民制限に伴い、ペルー、ブラジルへの移民者が増えた。一世帯が大正九年にペルーに渡り、十一世帯が大正七年にブラジルへ移民した。



円との別れを惜しんでウガンジャマ（津花波入口附近）で読んだ琉歌がある。「あかん生爪ややでいるあかりゆるやまんど別りゆみりと我身と」。

出移民

津花波は本町での有数の移民部落である。明治四十三年頃、四名の青年らがハワイに渡ったのをかわきりに、次々とハワイやペルー、ブラジル等に渡航した。戦後も、ブラジルやペルーへ呼寄せ移民として数家族が出て行った。小橋川でも、ハワイやブラジルに二五〇名ほどの同姓出身者が活躍している。明治三十七・八年頃契約移民として四・五名の青年らがハワイに渡った。その後、移民制限令でハワイへの移民が困難に

7区の概観図

おらがまち (八)

七区＝津花波、小橋川、内間

ここ内間では、旧六月十五日のウチマリーには必ずムディムチとタバコを名幸モー（御縁モー）にあ

7区事務担任者 長嶺由光

長嶺の嶽、内間ノロ殿地、イーフの嶽、後の嶽、ウブガー、名幸モー、御殿小、カヤブチ御殿、地頭火の神、イワオーウカー、ビジル、西原グリーンゴルフ場（以上内間在）

助昭▼名所・旧跡ノ上の嶽、津

▼人口一、九一五人▼世帯数二七九▼面積一・四三四平方メートル▼人口密度二、三三五（一平方キロメートル）▼耕地面積二・八・九ヘクタール▼さとうきび生産二万五千五トン▼事務担任者

長嶺由光

殿、与那川ガ、馬場跡、前ヌカ、中ヌカ、西ヌカ、大城助素氏石碑（以上小橋川在）、

▼西原台団地自治会長▼前代員雄▼小橋川団地自治会長▼大城久勝▼老人クラブ会長▼大城為義▼婦人会長▼与那嶺静子（津花波）、大城光子（小橋川）▼小橋川子ども会育成会長▼大城助昭▼名所・旧跡ノ上の嶽、津

津花波では、字で最も古い門中である呉屋門中（呉屋姓）をはじめ、マカーヌカーの子孫である与那嶺門中（与那嶺姓・米山姓）内間からの分家である与儀門中（与儀姓）、宮城門中（城間姓）、才口門中（玉那覇姓）、宗家が首里にある長嶺門中などがある。小橋川では、部落の創始家である東風平門中（与那嶺姓）、喜屋武門中（首里出身）、高江洲門中（大城姓）の三門中は現在では存在しない。首里王府勤めをしていた呉屋下庫理門中（呉屋姓）、玉城の糸数から来た大嶺門中（大嶺姓）、浜の御殿の看守人をしていた上門門中（宮城姓）、地頭代の家柄である伊田門中（大城姓）、宮平門中（呉屋姓）、幸地の仲門の次男腹である大仲門門中（与那嶺姓）などがある。内間には、字の創始家である宇根門中（糸数姓）、代々内間ノロを出した新川門中（与儀姓）、前佐敷門中（大城姓）などが古い門中である。年中行事

津花波では、戦前主として網引、エイサー、クスクスキー（腰懸い）、原山勝負などの字行事が盛大に取り行われた。旧六月二五日の網引は御殿小を境に南（古島・雄綱）と北（新島・雄綱）別かれて引いた。旧七月十五日のエイサーには字の青年らが夜おそくまで各戸を踊り廻った。年二回（春・秋）の原山勝負では、十三年連続優勝の記録がある。小橋川では字行事としていまでも網引と村芝居が行われている。旧六月二五日部落の中通りで、西

組（雄綱）と東組（雄綱）に分れて字民総出で引く。現在では網は麻縄で作っている。また、村芝居も盛んで、旧八月十三日から十五日にかけて、上ヌ松モーの遊び庭で催される。古い部落である内間では、一月二日の初ウビに始まり、二月一日のクスクスキー（農繁期の腰懸い）（休日）、三月三日の浜降り、四月十五日のアブシバレー（害虫ばらいの行事）、五月ウマチー（稲穂祭）、六月ウマチー（稲の大祭）六月二十四日のカシチー（新米の祭）、六月二十五日の御初網引、七月十六日のエイサー、八月の村遊び、九月十五日のイーフの嶽前広場での相撲、十一月のトゥンジ（冬至）、十二月七日のムーチー、十二月二十四日の御願解（ウガンブトゥチー）まで様々な年中行事が行われていた。

喜屋武知美さんが見事最優秀賞

全沖縄童話お話大会

小中学生の発表力を高め、豊かな心を育てようという町PTA連絡協議会（新川雅雅会長）主催の第

三回西原地区童話お話大会が十二月七日午後、中央公民館で児童や教育関係者など約三百五十人が参



▲全沖縄童話お話大会で最優秀賞に輝いた西原東小6年の喜屋武知美さん（同校校長室で優勝旗を前にして撮影）。

加して催された。町内の小学校から選抜されてきた十二人の豆弁士達は、五分間の持ち時間を使得って熱弁をふるった。審査の結果、坂田小三年すけらんとつとむ君、西原小二年宮平星子さん、西原小六年中村真也君、西原東小六年喜屋武知美さんの四人が最優秀に選ばれ、一月八日に名護市で行われた県PTA連合会主催の第三十三回全沖縄童話お話大会に出場した。

中央大会では、小学校高学年女子の部で「お母さんが弱いんだ」の演題で話した喜屋武知美さんが見事最優秀賞に輝いた。

製糖操業はじまる

本町ではじめての最優秀賞受賞となった。喜屋武さんには、優勝旗のほか賞状、トロフィーが手渡され、同

中部製糖株式会社製糖工場の操業が一月十五日からはじまり、四月十日（予想）まで製糖期を迎えた。本町の今期のキビ生産見込量は、昨年の三万三千トンより二万二千トン落ち込みが予想され、三万一千トンである。売り上げ代金は、六億六、四九五万円が予想されている。ちなみに今年のサトウキビのトン



▶キビ刈り取り作業風景

東部消防西原分遣所に大型消防車が配備される

消防業務の充実を図るために東部消防組合西原分遣所に十一月十一日から従来の消防ポンプ車・火災保険号（積載水量一、六〇〇ℓ）に代わり大型ポンプ車（積載水量三、〇〇〇ℓ）が配備された。ポンプ車は、車種三菱、総重量一万五、八五〇キロで時価一、六〇〇万円相当。



▶右のポンプ車が新たに配備

写真ニュース



▶一月二十七日午後、上原地内で発見された埋没不発弾の撤去作業が自衛隊不発弾処理隊によって行われた。不発弾は、口径三五センチ、弾長一〇センチ、重量三三三キログラムの米国製のもの。



▶昭和五十七年度の池田造林事業が一月三十一日に終わり、一ヘクタールにイヌマキ六千本が植えられた。



▶琉球紙器株式会社の新工場がこのほど本町字小那覇三四三番地に完成し、一月二十五日午後四時からその落成（移転）祝賀会が開催され、多数の来賓が参加した。祝賀会の前に関係者に新工場での操業のようが公開された。



▶津花波・呉屋地内の造林事業が一月六日から始まり四・五一ヘクタールに二万七、〇六〇本のイヌマキが三月十日までに植えられることとなった。

親子なごな練習会の入会者を募集

このほどから毎週土曜日午後七時半から九時半まで知念高校の真栄城紀子先生の指導により西原小学校体育館で「親子なごな練習会」を行うことになりました。

去った夏休みには、小学生の部、中学生の部が沖縄代表として戦後社会体育や学校の正課体育

中頭郡駅伝西原町チーム準優勝

中頭郡協主催の第二回中頭郡駅伝競走大会が十二月十九日に行われ、本町チームは、堂々準優勝に輝き、大城浩選手と大城貢選手

が区間賞を受賞し各選手ともよく健闘した。尚、各区間の順位は次の通り。一区、大城豊（七区）五位

- 二区、小波津盛正（一六区）四位
- 三区、与那城実（一四区）二位
- 四区、大城浩（七区）一位
- 五区、城間良信（七区）三位
- 六区、与儀善一（七区）三位
- 七区、大城貢（七区）一位
- 八区、宮里政春（二区）四位

（高校）にも取り入れられている心のスポーツです。沖縄のなごな人口は、百人余りで、少数ではありますが去年から毎年全沖縄大会にも参加する予定ですので、西原のグループは、東京での錬成大会をめざしてがんばっております。

なごなは、沖縄では、あまり普及されていないスポーツですが、特に、女子の武道として戦後社会体育や学校の正課体育